

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800089		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 土井 (はなみずき・花梨)		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮1丁目27番24号 TEL 092-674-1551		
自己評価作成日	平成30年01月30日	評価結果確定日	平成30年03月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年02月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームに入居されていても、その方の生活歴を基に、お一人お一人に合わせた穏やかな生活を送っていただけるよう支援しています。  
昔ながらの一汁三菜を基本とした旬な食材を使った食事や、季節ごとの行事・風習などを大切にしており地域の行事への参加・公民館への展示物の出展など行っています。またご利用者・ご家族ともに安全に・安心して生活していただけるよう、医療との連携を密にし、日々の健康維持・向上を図っており、毎月の通信紙でご家族へ状況のご報告を行っています。スタッフもご利用者とともに笑顔で生活していける、そんな空間作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ニチイケアセンター 土井」は、公民館や小学校にほど近い住宅街の中にある、2ユニット(定員18名)のグループホームである。玄関周りには季節の花の寄せ植えやプランターに球根を植えて、来訪者を気持ちよく迎えている。「職員に助けをもらいながら一緒に」という姿勢で取り組む管理者は、職員が働きやすいようサポートに徹し、利用者一人ひとりの心に寄り添う温もりのある支援を目指し、チーム介護で取り組んでいる。提携医による往診や訪問看護師との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りも行っている。利用者の重度化や職員不足の中でも手作りの食事にこだわり、利用者の好みを聴いて献立に採り入れ、それぞれの利用者に合わせて形態で提供し、その方のペースで食べてもらっていることが、利用者の長い入居年数に繋がり、家族から大きな信頼を得ている「ニチイケアセンター 土井」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の運営理念を掲げ、毎朝の復唱を行っている。全体会議やケア会議においても、現場での実践状況の確認・各フロア介護主任における現場での指導を行い理念の実践に注力している。	運営理念を掲げ、見やすい場所に掲示し、理念の共有に努めている。「今のケアが利用者に添えているか」を常に意識し、利用者働きかけて反応を見ながら振り返ることで、利用者一人ひとりの心に寄り添い、理念にある、「温もりのある支援」に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入や子供110番の家として活動を行っている。「地域にねざした福祉・医療を創る会運営会議」を発足し今年で5年目になり、現在も継続して地域に情報発信できるよう取り組んでいる。	近隣の事業所が協力して5年前に立ち上げた、「地域に根ざした福祉・医療を創る会運営会議」の活動の中で、地域への啓発活動が続いている。利用者として制作した作品を公民館に展示したり、八田ランタン祭りのランタン作り、認知症カフェへの参加等、地域との交流に努めている。	小、中学生の体験学習、ボランティアの受け入れ、小さな子ども達との交流等、外部から人が訪れる機会を作り、開かれたホームを目指す取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「地域にねざした福祉・医療を創る会運営会議」にて、認知症学習会を開催、また多々良公民館で毎月1回開催されている「認知症カフェ」に参加し、微力ながら情報発信に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂戴した意見を職員全体会議などにおいて、職員間にて共有、日々のケア・ホーム運営に活かしている。	会議は2ヶ月毎に年6回開催し、複数の家族や地域住民が参加している。利用者の状況や活動、事故、職員の異動等を報告し、毎回、資料を用意して勉強会を行なっている。会議の中で出された意見や要望は、出来る事から取り組み、サービスの向上に活かしている。	参加委員の増員を図り、広くホームの取組を伝え、ホームへの協力、応援の輪を広げていく積極的な取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故状況報告や、ケアにおける困難事例など相談させていただいたり協力関係を構築できている。	管理者は、疑問点、困難事例等について行政に相談し、情報交換しながら連携を図っている。社協と協力して立ち上げた「地域にねざした福祉・医療を創る会運営会議」の活動を通じて地域への情報発信を続け、地域密着型事業所としての取り組みを継続している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。身体拘束防止についての研修も積極的に行い、ケアに活かしている。	身体拘束については、勉強会の中で学ぶ機会を設けて意識づけを行っている。職員間で具体的な禁止行為の事例を挙げて検討し、言葉の抑制、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行い、職員全員が「しない・させない・見逃さない」をスローガンにして虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・学習会に参加し、職員全体会議で落とし込みを行っている。後見人制度を必要とされる方には提案を行い、支援できる事務手続きにおいても要望に応じて支援している。	権利擁護の制度について勉強会等で学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している利用者の後見人が、運営推進会議へ参加し、積極的な関りが得られているため、相談する中で制度への理解を深め、必要とされている利用者には、相談しながら活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての変更・改訂については、必ず書面にて内容をお渡しし、説明を行い、疑問点の確認作業を行った後に了承のサインを頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、通信紙(毎月発行)にてコミュニケーションを図り意向や要望の汲み取りに努めている。また、ホーム玄関に意見箱の設置を行い、気軽に投函していただけるように環境整備を行っている。	家族の面会や運営推進会議の機会に家族と話し合い、利用者の近況や健康状態を報告し、家族の意見や要望、心配事等を聴き取っている。また、話し合う機会の少ない家族には、通信に細かく利用者の様子を書き込み、電話やメールで意向を聴いて、ホーム運営や介護計画に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議やケア会議において、職員の意見・提案を汲み取る時間を設け、反映させている。	3ヶ月に1回は、非常勤の職員も含めた話し合いを行い、課題について検討している。毎日の申し送りや連絡ノート等で意見交換し、職員の意見を受けて決定したことの実践に取り組み、試行錯誤を重ねながら、利用者にとって、より良いケアを目指している。	人員不足の為、毎月の会議の開催が難しい状況であるが、職員意見箱の設置や個別の面談等、職員一人ひとりの意見や提案を聴く機会を設け、反映させていく取組を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の職制に応じて、快適な職場環境となるよう業務改善に取り組んでいる。また、キャリアアップ制度(社内昇給制度)や社員への昇格・資格取得推進を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	応募いただいた方においては、面接での会話や、思い・考えを選択基準にしている。また、職員の研修の参加の機会の確保に努めると共に、資格取得推進を働きかけ、モチベーション高く勤務に携われるように努めている。	創作活動やレクリエーション、食事作り等、職員が特技を活かしながら生き生きと働く事が出来るよう配慮している。管理者は、「最近どうですか」等、職員にこまめに声掛けし、思いを聴いて、職員が自発的な働き方ができるよう、サポートしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重週間時に配布される地域広報誌の回覧を行ったり、ラジオ放送内容(人権保護のFMラジオ)を伝達したりして、人権教育に取り組んでいる。	機会を見つけては、ニュースや人権の資料を基に話をする等、利用者の人権を尊重する介護サービスとはどう違うのかについて、意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・外部研修・学習会の参加を推進し、働きながら知識の向上・技術の向上できるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる提携施設との学習会参加や、社内・社外の研修参加を行い、情報交換できるように取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時間を十分に確保し、情報収集・分析・課題分析を行い、少しでも不安軽減した形で過ごしていただけるよう、初期ケアに取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場での不安な点・意向・要望などがなければ、情報収集・分析を行い、信頼関係構築図れるよう密なコミュニケーションの働きかけに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「現状」・「今後」における課題について分析し、必要なサービスの提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症学習会や、人権学習を行いながら、「介護する側」・「介護される側」の一方的な関係とならないように相互関係を築けるように職員教育に取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	親子・夫婦など、家族の立場を考慮しながら関わり、生活する空間は異なっても、共に介護している関係であることを職員には教育し、関係構築を図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「なじみ」の関係が継続できるよう、ホームにおいて対応できる範囲内については、柔軟に対応して支援している。	時折、知人の訪問があるが、家族、親戚の面会が多く、訪れやすい雰囲気を中心掛け、また来て頂けるように声掛けを行っている。また、手紙が届いたら返事を書いたり、電話をかける等、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然な時間の流れにおいて、ご利用者同士が場面の共有を行いながら「なじみ」の関係となれるような働きかけに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡を取り合い、相談に応じたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個人の希望に添えるよう、個人の意向を暮らしに反映できるよう努めている。また、歩んでこられた人生からお人柄の把握に努め、本人らしい暮らしが送れるように努めている。	日常生活の中で、利用者の思いを聴き取り、家族と相談して、利用者の希望の実現に取り組んでいる。意志を伝えることが困難な利用者も多くなってきたが、家族と相談しながら、長い入居年数の中で得た、「昔はこうだった」などを踏まえた日々の支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集や、介護認定情報の取り寄せなどを行い、暮らしの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・昼・夕と時間帯別に、心身の状態記入を行い、個別ケア会議のデータとして活用できるように詳細な介護記録記入を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向・ご本人にかかわる専門職の意見・家族の要望や提案などを反映させ、介護計画書の作成を行っている。	担当者会議の前に、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、職員間の気づき、意見を含めて話し合い、利用者本位の介護計画を短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を取りながら、主治医と連携し、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24Hの状態・状況を個別に介護記録へ記入し業務管理日誌にて職員間の送り記入を行い、ケアに反映させ、よりよいケアの提供が行えるように活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望に応えられるよう支援に努めているが、柔軟な個別対応ができていなかった部分もあるため改善が必要と考える。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の取引店の利用・自治会加入・地域の安全管理が行われていることにより、ご近所付き合いを行いながら、暮らしを営むことができています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	必要なときに必要な医療が受けられるよう、提携医療機関の確保を行い、通院・往診にて支援している。	入居時に利用者や家族の希望を聴き取り、現在は全員、定期的な往診可能な協力医療機関(2ヶ所)を利用している。他科受診については、基本的には家族にお願いしているが、難しい時にはホーム職員が同行している。受診結果は小まめに家族に伝え、情報の共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	医療連携体制を整備し、1回/週の訪問利用を行い健康管理を行っている。介護側からの相談や必要時には主治医との報告を行ってもらい、医療との連携を共に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関とのネットワークを構築し、入退院時には、情報提供表の作成を行い、早期退院に向けた療養計画作成を依頼している。また、入院中にも密に情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化に向けた指針を作成し、ご利用者やご家族の承諾を得て、ターミナルケアについて関係者で方針の共有を図っている。また、ご利用者の状態変化に合わせ、ご家族とその都度、話し合いを持ち、意向の確認を行いながら、重度化に向けた支援体制を確立している。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に利用者、家族に説明を行い、了承を得ている。利用者や家族の希望に出来るだけ添えるよう、関係者間で方針を共有し、連絡を密に取りながら、チームで看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の受講を推進し、急変や事故発生時に備えているが、定期的な実技訓練は行えておらず技量に不安があるので、避難訓練時に併せて、実践訓練を行いたいと考えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合避難訓練を実施している。非常食・飲料水などの備蓄を行っている。 地域自主防衛組織にも加入し、協力体制整備構築を図れている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、1回は消防署の協力を得て、指導を受けている。2階の利用者については火元の場所によって、階段、ベランダ、踊り場に避難して煙を避けるよう消防署と話し合っている。また、近隣の事業所と協力関係を結び、いざという時の宿泊場所を確保し、災害時に備えて非常食、飲料水の備蓄も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね、尊厳をもったコミュニケーションを図れている。発語が少ない方や、介助量が多い方においては、幼児語に近いことばが出やすいので、注意喚起を行い、尊厳ある働きかけに努めている。	利用者の人格を尊重した介護について、管理者から常に伝える事で、共通認識できるよう努めている。排泄や入浴時の声掛けや対応や、日頃の言葉遣いについて、職員一人ひとりが意識しながら、利用者の誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向・お気持ちの汲み取りを行えるような働きかけに努め、自己決定しやすいような場面提供に努めている。また、経験などの差もあり、介護職意向で進め、反って不穏を招いている状況もあるので教育・指導に注力していきたい。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、お一人のお人柄が現れるような働きかけを行い、その方らしい暮らしとなるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や、お肌のお手入れなどを継続して行えるよう支援している。パーマやカラーなどの美容・理容を定期的にご利用しおしゃれを楽しめるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一汁三菜を基本にし、目で楽しめるように工夫している。また、ご本人様がご自分で調理に参加していただいたり、つぎ分けを手伝ったり、味見をして頂いたりし、食事への参加支援を行っている。	利用者の嗜好を採り入れ、職員が交代で作る一汁三菜を基本とした食事を提供している。ミキサー食、刻み食等、利用者一人ひとりの状態に合わせて提供し、時間をかけてそれぞれのペースで食事している。利用者の力に応じて、包丁を持って手伝ってもらったり、もやし根切り等をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔状態・咀嚼状態・嚥下状態に応じて、刻み食・ミキサー食の提供、水分へのトロミ剤使用を行っている。エンシュアなどの補助栄養食品も併用している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き誘導/介助・義歯洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄はトイレ」を基本とし支援している。各個人の排泄表を基に、お声かけとご案内で排泄の自立に向けた支援を行っている。	重度化の利用者が増え、トイレでの排泄が難しい方が増えてきたが、利用者一人ひとりの、安全に歩ける距離を試しながら、日中はトイレに座って腹圧をかけ、排泄を促している。また、その際に利用者の褥瘡早期発見等の気づきも多くなり、早期治療に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜・緑黄色野菜の提供、乳製品の提供を行い、便秘予防に取り組んでいる。腹部マッサージや温あん法も取り入れ、腸の活性化を考慮した対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきに入浴することとしているが、ご本人様の希望で毎日入浴される方もいる。入浴剤などを使用しながら、入浴を楽しめる工夫を行っている。入浴を拒まれるご利用者に対しては、お声かけのタイミングをずらしたり、職員の交代を行ったりしながら働きかけている。また、無理強いをせずに足浴・清拭などで対応も併せて行っている。	一日おきの入浴を基本としているが、身体的に難しい方は週2回にしたり、毎日入浴をする方もいる等、利用者それぞれの希望や体調に配慮した柔軟な入浴支援を行っている。入浴を拒否される方には、時間帯を変えてみたり、職員が代わる等しながら、無理強いのない支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ナイトケアの提供・室温の調整などを行い、安心して休むことができるように取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、服薬支援のマニュアルに基づいて支援している。処方箋変更時には、差し替えを行い、各職員確認するようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を行ったり、生活歴を考慮し、役割・楽しみごとの支援を行っている。 毎月、季節の壁面構成を作成することが定着しており、それぞれが楽しみながら作成している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を計画したり、戸外に出かけられるよう支援している。近隣への散歩は、日課のように毎日出かけている。	天気の良い日を利用して、それぞれ歩ける距離に配慮しながら、散歩に出かけている。「近所の梅が咲いたよ」等、情報が入れば交代で見に行く等、体調を見ながら、季節を感じる事の出来る外出の支援に取り組んでいる。	法人の規定で職員の運転での外出が難しいため、遠方への外出やドライブ等の機会が限られてはいるが、その中でも、外気に触れる機会を設け、利用者の気分転換に繋げていく事を期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、個々の金銭管理はホーム側で行っている。嗜好品や消耗品のお買物の際は、お金をお渡しし買物していただいている。個別に財布をお持ちの方もおられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、手紙の投函への同行や代行を行い支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じて、ユニットの壁面構成を行っている。また、温度計を利用し室温・湿度の把握を行っている。換気も定期的に行い、心地よい空間となるよう配慮している。	季節毎に利用者と職員が壁面を飾る作品作りに取り組み、安心できる環境の中で楽しみながら生活が出来ている様子が伺えるような共用空間作りを心掛けている。また、折り紙を使った飾りやお雛様飾り、利用者の笑顔の写真を掲示して、温かな雰囲気のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	応接スペースの確保・和室の確保・その方らしい居室空間の確保を行い、心地よい場所となるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、お仏壇・タンス・鏡台・写真・馴染みの小物など、ご家族と相談しながら持ち込んでいただき、ご利用者が安心して穏やかに暮らせる空間となるよう配慮している。	利用者が自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇等を家族の協力で持ち込んでもらい、カーペットを敷いたり、本人が昔描いた絵や家族の写真等を飾り、その方らしく過ごせる居室になるよう配慮している。家具の配置は、利用者の動線を考慮して安全を確かめながら行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方、歩行の方に合わせた洗面台や浴室などの施設設備設計を行っている。車椅子自走の方にも対応できるよう廊下幅を広く設けている。		